

商品市況展望

平成 25 年 1 月 20 日記

為替相場が 90 円台に乗せた事で、金の上場来高値更新を筆頭にして、ほとんどの銘柄が今週も一代高値の更新をしている。

一代とは各限月が生まれてから（発会してから）終了するまで（納会するまで）の動きの事であり、一代高値はその中での高値、一代安値はその中での安値という事になる。当方のレポートに毎週必ず載せている理由は、チャートの動きと実際の自分の買った限月の動きが違うケースが商品相場には多々あるわけで、その判断をハッキリ認識するために。またこの一代の推移は、明らかに買い方・売り方の勢力図が一目瞭然で理解出来るわけで、その後の相場動向の判断材料のひとつにもなるという事から、アップしているわけだ。そして更新した価格・日付は、強調フォントで示してある。

レポートで解説している銘柄の中で、今週その一代高値を更新したものは、**金・プラチナ・原油・ガソリン・灯油**が全限一代高値の更新。コーンは 9 月限を除いて、大豆は当限と先限を除いて一代高値の更新となっているわけだ。ゴムだけは、1/11 に付けた高値を抜いていない。

これで何を考えるかといえば、**ともかく現状では買いで損をしている人は皆無**。だから相場は、完全に買い方ペースで運んでいると判断する。

また例えばコーンの先物チャートでは 3 万円→24,000 円まで下げ、やっと 27,000 円近くまで上がって来たが、3 万円の高いところで買った人はまだ 3,000 円損をしているのかといえば、さにあらず。**5 月限だと 32,000 円しているわけで、チャート上の天井で買っていても 2,000 円儲かっていると判断出来るわけだ**。（もっとも一代安値では 21,000 円であるし、天井を付けた後の暴落で、高値の買い玉はとっくに追証攻めで投げているかもしれないが）

またゴムは今週高値更新が出来なかったが、これを出遅れと取るか、あるいは先んじて天井を付けた可能性があるか？と読みをめぐらすわけだ。結果は神のみぞ知る話だが、相場の場合はその結果がそんなに遠くない将来にすぐにわかるゆえ、何十年も先まで判らない年金問題とかとは大きく違うわけだ。それが相場の面白いところだ。

歴史を紐解くと、かつて金はニクソンショック（1971 年）でドルとのリンクが外れるまでは、**1 トロイオンス（31.1035 g）=35 ドル**と決まっていた。また **1 ドル=360 円**と為替は固定相場制だったわけで、つまり **金 1 g = 35 ドル × 360 円 ÷ 31.1035 = 405 円**が国内価格と決まっていたわけだ。

決まっているのだから相場は無かったわけだが、ドルと金の兌換が停止され猛烈に金が上がり始め、為替は変動相場制への移行でずっと円高になり、今に至っているわけだ。

そんな中で金が取引所で売買される前は現物相場だけだったわけだが、**小売価格は 6,400 円**というのが過去最高値である。東京先物市場にはその後、下げたあとに上場されたので、今が最高値という事になるわけだが。

さて当方のレポートは、週刊で出しているわけだから、基本的に今後 1 週間の動きや仕掛け

場を予測しているわけだが、相場予測には短期・中期・長期・超長期というものがある。この定義が難しいわけだが、読者のためにはハッキリさせておかねばならぬと常々思っていたので、ここで明らかにしておきたいと思う。

超長期とは、1年以上、2～3年とか、5年とか10年とかのスパンであり、**発会～納会**の一代足に収まらないスパンの事と考えている。それ以上先の、30年とか50年とかのスパンは、経済学者や社会学者の世界であり、当方には関係のない話だと考えている。

金が6,400円を記録したのは、その何十年も前の話だが、最後はいつべんに1,000円上げて、1,000円下げるなどの激しい動きをした。ここ1～2年のうちには、そういう歴史的な大天井を付けるのだらうと思っているが、それは相場予測ではなく、そういう事が起きて終了するのだらうという経験則で考えているだけで、実際の市場での売買にはあまり使えない類のものであろう。

長期とは、先物にある限月が中物～当限に廻るまでのスパンで、これは貴金属・穀物のような1年で納会を迎えるものと、石油やゴムのように半年で納会を迎えるものの銘柄によって期間が違うわけだが、それぞれ半年～1年、3ヵ月～半年のスパンで考えているものだ。

これが当たれば、実際の売買益としては、一番美味しい事となるわけだ。だが明日の天気を当てるのも難しいのに、半年後の天気予測など更に難しいわけで、結局は日々の積み重ねで利を伸ばして、結果的に期近まで持っている結果となるという事の方が、多いかもしれない。また一般で多いのは、口は悪いが因果玉を損切り出来ずに、結果的に期近まで廻る事の方が多いかも。

中期とは、1ヶ月～長期に入るまでの期間と考えている。一般投機家の多くの売買は、大体がこのパターンだらうと考えている。

短期とは、それ以下の1ヶ月以内での売買。今日買って、明日売っても短期。今日買って、1週間後に売っても短期。ただし期先にあるものが、2番限に廻るようなら、それはもはや短期ではなく、中期に入ったと見るべきだらう。あくまでも、当方の考え方だが。

最近**デイトレード**=日計りとかも盛んなわけだが、それは超短期という事になる。当方ももちろん行ったりするが、こればかりはレポートでは無理な解説だ。

例えば夜間取引では、10時半頃、12時半頃に大きく動くケースが多いわけだが、そこで金が50円動いたら利食いしてしまうという戦法とかも良く使う。しかしタイムラグが命取りになるし、レポートでは無理な相談だ。

以上が当方のレポートの基本的な考え方であり、たまに長期（3ヵ月～1年）の見方をアップする事もあるが、基本は中期（1ヶ月超）～短期（1ヶ月内）の内容であり、週刊レポートという性格上、その基本は1～2週間をめぐりに起きるだらう事を予測しているわけだ。

ずっと買いトレンドで、内部要因や指標も変化無ければそのままの場合もあるし、その間に何かがあれば相場観が転換する事もあるわけである。

〔貴金属〕

○東京金日足

…削除済み…

今週の金の値動き

	2月限(当限)	前日比	12月限(先限)	前日比
1月15日	¥4,788	6	¥4,797	2
1月16日	¥4,768	-20	¥4,778	-19
1月17日	¥4,786	18	¥4,796	18
1月18日	¥4,899	113	¥4,908	112

金相場は、先週号においては『円安が進む限り、東京市場の金価格の上昇は止まらないだろう。しかしNY金はまだ強くないので、為替が一時的にでも円高にぶれば、その場面では押しが入ることになるだろう。そういうところが、買い場となるだろう』とコメントした。

今週の相場展開は、週末にまた急騰した相場が **4,911 円 (1/18) の高値まで記録**。先週よりもまた 100 円ほど値を切り上げ、上場来高値の再更新である。

今週は一時、甘利大臣、石破幹事長の発言で 88 円割れまで若干の円高となって、相場が緩む場面があったわけだが、その後 90 円台に乗せて一気に舞い上がり、相場は 5,000 円台乗せも視野に入ってきた状況となっているわけだ。

相対力指数は…中略…

NY 金も底入れ～上昇へと転じる気配の中で、為替が一般的に言われているような 95 円～100 円のレンジを目指すのであれば、多少 NY 金を現在の値位置から割り引いて考えたとしても、

○1650 ドル×95 円÷31.1035=5,040 円～ 1650 ドル×100 円÷31.1035=5,304 円 となる。

もちろん相場というのは皮肉なもので、「皆が強気になれば下がる」という事もよくあるわけだが、NY 金のがもう一度の押し+為替の調整が同時に来たとしても、

○1630 ドル×88 円÷31.1035=4,611 円 辺りまでの 300 円押しがせいぜいだろうと見ている。

先週号でもコメントしたが、…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

東京金一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013 年 2 月	¥4,654	2 月 27 日	¥4,900	1 月 18 日	¥3,885	6 月 4 日	¥4,899
2013 年 4 月	¥4,307	4 月 25 日	¥4,903	1 月 18 日	¥3,886	6 月 4 日	¥4,900
2013 年 6 月	¥4,023	6 月 27 日	¥4,902	1 月 18 日	¥3,940	7 月 24 日	¥4,902
2013 年 8 月	¥4,224	8 月 29 日	¥4,905	1 月 18 日	¥4,166	9 月 3 日	¥4,902
2013 年 10 月	¥4,404	10 月 29 日	¥4,908	1 月 18 日	¥4,330	11 月 6 日	¥4,906
2013 年 12 月	¥4,519	12 月 25 日	¥4,911	1 月 18 日	¥4,502	12 月 25 日	¥4,908

夜間取引では、高値と面合わせで若干押しているが、**4,800 円を挟んで何日間かもんでいるため、それ以下の価格はまだ出づらいのではあるまいか？**

当方としては、4,800 円台半ばでも良い押し目だと考えている。

○NY 金日足

…削除済み…

週末 1/18 の NY 市場は、前日比 3.8 ドル安の 1687.0 ドルでの終了。これは 3 連休を控えた利食い売りが、下げの要因であろう。

チャートでは、…中略…

まだ一目均衡表の雲の上には出ていないわけだが、相対力指数は 30→50 ポイントまでの回復であり、「1626 ドルで底は打っているだろう」という姿である。万が一もう一度下げても、1630 ドル台で止まって戻し始めれば、逆三尊の底にもなる格好だ。

またこのまま 1700 ドル台に乗って雲を抜けると、上昇に加速が付く格好でもある。国内市場は円安進行中なのだから、…中略…

CFTC 発表の 1/15 現在のファンドのポジションは、…中略…

また 1/18 現在での ETF 残高は、…中略…

なおトムソン・ロイターGFMS は、米経済への不安やドルの上値が抑え続けられることを背景に、今年の金価格が年間平均で 1 オンス当たり 1847 ドルと過去最高水準に達するとの見通しを示した。また、今年前半の金平均価格は 1775 ドルと、昨年後半平均の 1685 ドルから上昇し、半期ベースでこれまでで最高だった 2011 年後半の 1693 ドルを上回る見通しも示した。ただ、金の強気相場は今年終盤にピークを迎えるとも予想している。

…中略…

結論として当方の相場観は、4,900 円台まで上がって来た相場であるが、まだ天井は先であろう。まずは 5,000 円台、そして 5,300 円台を目指しているものと見ている。調整は入っても 4,800 円割れは困難と見ており、仮に大きく下げても 4,600 円以下はまだ無いだろうとの見方である。

○東京プラチナ日足

…削除済み…

今週のプラチナの値動き

	2月限(当限)	前日比	12月限(先限)	前日比
1月15日	¥4,781	106	¥4,823	103
1月16日	¥4,740	-41	¥4,774	-49
1月17日	¥4,776	36	¥4,805	31
1月18日	¥4,910	134	¥4,946	141

プラチナ相場は、先週号においては『週末までの3連騰で若干過熱感が出ているか。ここは冷静に押した場面を買いたいが、南ア情勢のニュースには注意が必要だろう』とコメントした。

今週の相場展開は、週明けに急騰して4,800円台に乗せ、その後は甘利・石破発言で若干円高になったため押しが入り、週末は90円台までの円安で再び急騰。4,948円(1/18)という高値まで記録した。

押しは4,913円(1/16)→4,713円(1/17)までの200円弱であり、その後週末に掛けてそれ以上の上げとなったわけだ。

プラチナの倍率は500倍であるため、200円の動きは10万円の動きである。そして証拠金は1枚=54,000円であるため、証拠金以上の動きが毎日出ていると言っても過言ではない。こんな面白いものが、他にあるか？

ともかく円安&金高&南ア鉱山閉鎖の材料で、このところは金以上の上げ(300円ほど大きい)を見せたわけだ。

そのアングロ・アメリカン・プラチナムは…中略…

しかしNY市場3連休前の夜間取引では、利食い売りももちろんあっただろうが、早期鉱山閉鎖の回避の観測で、大きく下落している。一時は4,840円まで下げ、夜間の終値は71円安の4,875円である。

世界最大のプラチナ鉱山会社であるアングロ・アメリカン・プラチナム社は、今後3ヶ月を掛けて同社の鉱山閉鎖提案に対し、南ア当局との協議を行うと発表。これが早期鉱山閉鎖の回避につながると、この日のNYプラチナは前日比26.5ドル安の1674.0ドルまで下げての終了となったわけだ。さすがに1万4,000人の解雇は、政情不安につながると政府が介入したのだろう。

よってこの日一時は1700ドル台まで上がっていたのが、…中略…

しかしその後は言えば、やはり金と同様に強い相場なのだろうし、いずれ鉱山は閉鎖されるのだとの観測が高まれば、再度大きく上昇してゆくのだろう。

相手はロスチャイルド系の会社である。アングロ・アメリカン社(英国)は、ダイヤモンド・カルテルの頂点に立つデビアス社の最大株主でもあり、プラチナもダイヤモンドのようにどうせ高値安定で価格を維持する事を目論んでいるのだろう。

プラチナというのは、南アが76%、ロシアが14%とこの2国で世界の90%を占めており、しかもそれを支配しているのはロスチャイルドとプーチンなのである。きな臭い動きをするのは、ある意味で当たり前だ。

なお一代の動きは以下のとおり。全限一代高値の更新である。

東京プラチナー代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年2月	¥4,535	2月27日	¥4,910	1月18日	¥3,468	7月24日	¥4,910
2013年4月	¥4,090	4月25日	¥4,922	1月18日	¥3,466	7月24日	¥4,922
2013年6月	¥3,681	6月27日	¥4,928	1月18日	¥3,460	7月24日	¥4,928
2013年8月	¥3,860	8月29日	¥4,931	1月18日	¥3,807	8月31日	¥4,929
2013年10月	¥3,998	10月29日	¥4,942	1月18日	¥3,933	10月30日	¥4,940
2013年12月	¥4,249	12月25日	¥4,948	1月18日	¥4,236	12月25日	¥4,946

先物は夜間取引で、一代高値から100円ほど押しているわけだが、これで押し完了という場合もあるが、一代で700円上げたのだから、最大で調整は半値押しに近い300円強というのが、このデータからも見て取れるだろう。

○プラチナー金価格差日足

…削除済み…

週末現在のサヤは、4,946円（プラチナ）－4,908円（金）＝38円。

昨年是一時－550円までプラチナが割安になったわけだが、今週是一時＋67円（1/16）まで拡大するなど、今年に入ってから大きくプラチナの割安は訂正に向かっている。

一般的にプラチナと金の価格差は、…中略…

金とのサヤを取る時は、プラチナを2枚買って、金を1枚売れば良いわけだ。ただしサヤ取りは通常、為替の変化には全く影響しない。

結論として当方の相場観は、アングロ・アメリカン・プラチナム社は、今後3ヶ月を掛けて同社の鉱山閉鎖提案に対し、南ア当局との協議を行うと発表したため、プラチナ独自の買い材料は一巡となったため、一度は押すだろう。しかし調整安完了後は、再び高値追いとなるだろう。

〔穀物〕

○東京コーン日足

…削除済み…

今週のコーンの値動き

	3月限(当限)	前日比	1月限(先限)	前日比
1月15日	¥29,600	1000	¥26,370	210
1月16日	¥30,360	780	¥26,200	-170
1月17日	¥30,080	-300	¥26,390	190
1月18日	¥30,500	420	¥26,720	330

まずはコーンから…

先週号においては『相場は円安&シカゴ旧穀の在庫率低下を受け、一時的な戻り相場に入っているものと思われる。しかしそれは、まだ次の売り場提供のための戻りであろう。短期買いならともかく、本格的な上昇はまだ先の話であると見る』とコメントした。

今週の相場展開は、一目均衡表の雲の上にも出てトレンド転換した相場が、円安の進行とともに値を切り上げ、26,750円(1/18)まで上昇。また逆ザヤ相場となっている期近3本も一代高値の更新であり、特に5月限は32,000円台まで上昇する事となった。

先物チャートは、…中略…

コーンの倍率は50倍であり、証拠金は1枚=45,000円。このところ先物チャートで1,000円ほど上がったと言っても5万円の動きだが(それでも倍だが)、5月限は上下で11,000円動いているわけで、1枚当り55万円の動きをしているわけである。

残念ながらこれは先物チャートを見ても判断出来ず、一代の推移を見なければならない。これを追いかけるのが、長期相場だ。

その一代の動きは以下のとおり。

東京コーン一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年3月	¥23,290	2月16日	¥30,500	1月18日	¥20,820	6月4日	¥30,500
2013年5月	¥23,250	4月16日	¥32,300	1月18日	¥21,040	6月4日	¥32,060
2013年7月	¥21,550	6月18日	¥30,500	1月18日	¥21,490	6月18日	¥30,360
2013年9月	¥28,500	8月16日	¥29,430	8月23日	¥25,510	10月1日	¥28,040
2013年11月	¥25,600	10月16日	¥26,740	1月18日	¥24,420	11月14日	¥26,680
2014年1月	¥25,700	12月17日	¥26,750	1月18日	¥24,930	12月21日	¥26,720

なぜ5月限がこんなに高く、先物2本も上昇中だが5月と比べれば5,000円も安いのかと言えば、まず新穀と旧穀の問題がある。

シカゴも大きく逆ザヤなわけであるが、現在の在庫率は低く、新たな収穫があるまでは値が下がりづらいが、秋になれば作付面積増→収穫増→在庫回復と読んでいる向きが多いという事なのである。

ただしそれだけでは説明がつく話ではなく、5月と7月の2,000円の差は何？ 7月と9月の

2,000 円の差は何？ 更に 9 月と 11 月の 1,500 円の差は何？となるわけである。

これについて、〇〇だからという明確な説明は難しいが、当方は内部要因というものも大きく左右しているものだと考えている。

ちなみに…中略…

○シカゴコーン日足

…削除済み…

週末 1/18 のシカゴ市場は、3 月限で 3 セント高の 727.50 セントでの終了。12 月限では 4.00 セント高の 590.50 セントである。

相変わらずの逆ザヤ相場である。

インフォーマ・エコノミクスは、今年のコーンの作付面積見通しを 9930.3 万エーカーと上昇修正で発表。ちなみに昨年実績は、9200 万 Ac だった。

また CFTC 発表の 1/15 現在のファンドのポジションは、…中略…

結論として当方の相場観は、シカゴ市場の大きな上げはないだろうが、東京市場は期近の玉締めと円安での上昇がまだ残っていそう。短期的には押し目買いであろう。

○東京大豆日足

…削除済み…

今週の大豆の値動き

	2月限(当限)	前日比	12月限(先限)	前日比
1月15日	¥54,060	-1190	¥50,340	710
1月16日	¥56,500	2440	¥49,790	-550
1月17日	¥56,220	-280	¥49,930	140
1月18日	¥56,800	580	¥50,440	510

続いて一般大豆です…

先週号においては『円安なので国内相場は売りにくいが、その円安だけで大きく買われた場面は売り場であろう。現在のところ、大豆相場自体には買い材料は皆無ゆえに』とコメントした。

今週の相場展開は、90円台に乗せる円安進行を受けて再び上昇に転じた相場が、先物で5万円台を回復。なお逆ザヤ相場ゆえ、中物4限月は一代高値の更新を演じる事となった。

先物チャートでは48,450円(1/9)→50,580円(1/15)までの急反騰だが、その上げ幅は2,000円程度に留まっているわけだ。しかし今週一代高値を更新した4月限ではすでに57,000円台乗せとなっているのを見ても判るとおり、このチャートでの夏場の天井よりも、はるか上に位置しているわけだ。

大豆の場合の倍率は10倍で、証拠金は1枚=2万円と安い。2,000円動いてちょうど2万円の動きなので、それが大きい小さいかはそれぞれの感覚だろうが、4月限は高値・安値で15,000円動いているわけで、15万円の動きはあるわけだ。

なぜこんな大きな逆ザヤになっているのかといえば、やはり旧穀・新穀の問題が大きいだろう。…中略…

また内部要因でも、この動きは説明できる。

…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

東京一般大豆一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年2月	¥41,900	2月16日	¥60,000	7月23日	¥41,050	2月16日	¥56,800
2013年4月	¥45,350	4月16日	¥57,070	1月18日	¥41,750	6月4日	¥57,070
2013年6月	¥44,700	6月18日	¥52,640	1月18日	¥44,400	6月18日	¥52,640
2013年8月	¥48,020	8月16日	¥51,840	1月18日	¥47,500	11月13日	¥51,840
2013年10月	¥47,220	10月16日	¥51,400	1月18日	¥46,920	10月16日	¥51,400
2013年12月	¥50,680	12月17日	¥50,680	12月17日	¥48,450	1月9日	¥50,460

○シカゴ大豆日足

…削除済み…

週末1/18のシカゴ市場は、3月限で1.00セント高の1429.25セント。11月限は7.00セント

高の 1292.25 セント。

相変わらず旧穀、新穀の逆ザヤ相場である。

チャートでは、国内相場は一目均衡表の雲の上での推移であり、期近は更に高いわけだ。しかしシカゴのチャートは期近の表示であるが、それでもずっと一目均衡表の下での推移であり、つまりは戻り売りを暗示しているチャートだ。

しかも新穀はこのチャートよりも、更に 130 セント以上安い 13 ドル割れに位置しているのだから、なお悪いという事である。

そう考えると、シカゴは戻り売り相場で、東京のみ内部要因と円安で、まだ上昇の余地があるかも、という相場なのだろうと見る。

なお CFTC 発表の 1/15 現在のファンドのポジションは、…中略…

結論として当方の相場観は、東京市場は円安の追い風もあり、一代高値の更新を果たす限月も続出するなど弱くないが、シカゴはまだ戻り売りの下げトレンドにある。よって、逆張りの相場展開がまだ続くのだろうと見る。

[ゴム]

○東京ゴム日足

…削除済み…

今週のゴムの値動き

	1月限(当限)	前日比	6月限(先限)	前日比
1月15日	297.5	-0.9	312.1	-0.1
1月16日	289.4	-8.1	304.1	-8.0
1月17日	289.1	-0.3	305.4	1.3
1月18日	296.6	7.5	316.3	10.9

先週号においては『ゴム自体に上げ材料があるとは思えないため、天井を確認できれば売り参戦（今のところ 301.9 円割れで確認か？）良いと見るが、安易な売りは危険だろう』とコメントした。

今週の相場展開は、17日には 301.0 円まで下落したものの、そこから反騰に転じた相場が 316 円台まで回復。

先週末の高値 321.0 円（1/11）→301.0 円（1/17）まで 20 円下げた相場だったが、すぐに 16 円も反騰したわけで、まだ天井を打ったかどうかは不明。まだ 321.0 円はオーバーしていないため、ここで上げもだえて再び 300 円を割り込むかという下げに転じれば、天井確認となるかもしれないわけだが、逆に 321.0 円を超えた場合はまた青天井の可能性もある。

今回アップしたチャートでは判断できないだろうが、抜けた場合は 350~360 円どころまで行かないと終わらない、という可能性もある。

ともかくファンドはまだ買い姿勢を崩しておらず、取組高もこのところ急増して来ている。つまり、売り方も買い方も、それぞれの思惑で参戦して、なお戦線を拡大している道中にあるわけだ。

なかなかこの上げ相場が終了しないのは、内部要因から見れば当然なのかもしれない。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京ゴム一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年1月	230.2	7月26日	306.3	1月11日	205.6	8月14日	296.6
2013年2月	230.0	8月26日	306.6	1月11日	216.4	8月31日	301.3
2013年3月	253.5	9月25日	310.1	1月11日	240.0	11月12日	305.4
2013年4月	262.1	10月26日	314.0	1月11日	241.8	11月12日	309.4
2013年5月	259.7	11月27日	317.0	1月11日	245.6	11月29日	312.8
2013年6月	286.0	12月21日	321.0	1月11日	283.8	12月21日	316.3

当先のサヤは、1月限 296.6 円～6月限 316.3 円と 19.7 円の順ザヤ。ファンドの先への乗り換えで、順ザヤは大きく拡大である。

週末現在の輸入採算価格は、…中略…

国内営業倉庫在庫は、12/31 現在で 310 トン増の 7,136 トン。3 旬連続の増加である。

上海ゴム在庫は、…中略…

上海ゴム価格は、週前半安の週後半高で、25,000 元台後半での動きである。

タイ政府は、価格支援策としての市場介入は継続的に行われており、**11 月時点から在庫が 3 万トン増加し 20 万トンに達したと発表**。3 月に市場介入の期限が切れ、延長するかは未定としている一方、輸出削減措置は維持し植林拡大計画を中止するとした。

国内では、週明けの日銀金融政策決定会合で追加緩和が予測されており、これはすべての商品に強材料。しかし実際に買っているのはファンドゆえ、材料よりもチャートが大切だろう。

結論として当方の相場観は、321 円を超えることが出来るか、逆に 300 円を割り込む事が出来るかに注目だ。買い方の主力はファンドゆえ、相場は相場に聞けでチャート次第の動きになるだろうと予測する。

〔原油・石油製品〕

○NY 原油日足

…削除済み…

今週の原油の値動き

	1月限(当限)	前日比	6月限(先限)	前日比
1月15日	¥60,040	40	¥58,950	-20
1月16日	¥59,280	-760	¥57,870	-1080
1月17日	¥59,550	270	¥58,200	330
1月18日	¥60,400	850	¥59,900	1700

まずは原油から…

先週号においては『来週は青天井に突き進むか、少なくとも4,000円程度の大きな調整が入るかの正念場となるだろう。基本は押し目買いだろうが、大波乱する可能性も視野に入れて、相場を張るのが良いだろう』とコメントした。

今週の相場展開は、NY原油は96.04ドル(1/17)まで上昇。週末1/18は、前日比0.07ドル高の95.56ドルでの終了である。

相対力指数は71ポイント台と70ポイントオーバーであるが、昨年12月の85ドル台で底を打った相場は、右肩上がりの上昇中だ。この70ポイントオーバーで止まらない場合は、チャートは青天パターンとなって、目標値は昨年9月の100ドル台を目指す事になる。

NYダウは5年ぶりの高値を更新するなど、…中略…

なお週末のロンドンブレントは111ドル台、ドバイ原油は108ドル台である。

また1/15現在のファンドのポジションは、…中略…

○東京原油日足

…削除済み…

東京原油は、海外原油高&90円乗せの円安で、更に騰勢に拍車が掛かっている。週末には高値で59,960円(1/18)まで上昇であり、それ以外の限月はすべて6万円乗せた。

今週は1/17には57,600円まで2,000円近い押しもあったのだが、そこでは崩れきれず、80ポイント近くまで上がっていた相対力指数の、単なる指数調整で終わった模様。

指数は52,000円→55,000円台へ3,000円上がった時点から、すでに70ポイントを記録していたわけだが、すでに6万円に届こうかという現在までの上げ幅の方が5,000円近くとはるかに大きく、これが青天井の相場の特徴だ。

通常なら相対力指数は、…中略…

原由の証拠金は、現在1枚=8万円。倍率は50倍なので、1,000円動けば5万円で、2,000円動けば10万円の動きである。週末辺りは、一発でその10万円替えの動きをしたという事だ。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京原油一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年1月	¥48,890	8月1日	¥60,600	1月18日	¥48,420	8月1日	¥60,400
2013年2月	¥53,910	9月3日	¥60,960	1月18日	¥50,290	9月21日	¥60,940
2013年3月	¥52,040	10月1日	¥60,740	1月18日	¥50,610	11月12日	¥60,740
2013年4月	¥51,740	11月1日	¥60,430	1月18日	¥50,390	11月12日	¥60,390
2013年5月	¥54,860	12月3日	¥60,160	1月18日	¥52,370	12月11日	¥60,120
2013年6月	¥58,080	1月4日	¥59,960	1月18日	¥57,320	1月8日	¥59,900

結論として当方の相場観は、青天井の上げ相場に突入しており、こういう相場はかなり長い陰線が入らないと天井を打たないだろう。それ以外の陰線は一本しか入らないケースも多く(1/16の足など)、そういう場面は買い場となるだろう。方針は、値頃感無用の押し目買いで。

○東京ガソリン日足

…削除済み…

今週のガソリンの値動き

	2月限(当限)	前日比	7月限(先限)	前日比
1月15日	¥73,270	250	¥74,360	160
1月16日	¥72,310	-960	¥73,310	-1050
1月17日	¥72,730	420	¥73,830	520
1月18日	¥73,540	810	¥75,520	1690

続いてガソリンです…

先週号においては『円安は続くと思われるので大天井ではないと思うが、さすがにここまでの急騰で、目先は売り場を探したい。どんな相場でも、上がったものは下がる、下がったものは上がるのが定説であるのは当然ゆえに』とコメントした。

今週の相場展開は、売り場探しは75,100円(1/11)→73,070円(1/17)までの下げで若干報われたものの、その後は更なる急騰となり、週末は75,670円(1/18)と更に高値を更新。

17日までのほんの数日の下落は、単なる指数調整だった模様。今週末も全限一代高値の更新であり、このところずっと毎週金曜日には高値更新となっている。

このペースでは、来週もどこかで押しが入ったとしても、週末にはまた高い？ このパターンが崩れて、初めて天井かもしれないと考えるべきなのだろう。

とにかく基本的に、今の原油相場は強いわけであるし、…中略…

現在のガソリンの証拠金は1枚=8.5万円で、倍率は50倍である。1,000円動いて5万円がそれこそ毎日動くわけで、最終的にどこまで上がるとか、下がるとかではなく、とにかく2,000円幅を何回もトレードするのがベターな相場だろう。

さて一代の推移は、以下のとおり。

東京ガソリン一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年2月	¥58,670	7月26日	¥73,740	1月18日	¥58,160	7月27日	¥73,540
2013年3月	¥64,510	8月27日	¥74,690	1月18日	¥61,020	9月21日	¥74,570
2013年4月	¥63,400	9月26日	¥76,170	1月18日	¥62,560	11月6日	¥76,090
2013年5月	¥65,180	10月26日	¥75,980	1月18日	¥62,490	11月6日	¥75,900
2013年6月	¥67,980	11月26日	¥75,800	1月18日	¥66,480	12月10日	¥75,680
2013年7月	¥69,810	12月26日	¥75,670	1月18日	¥69,640	12月26日	¥75,520

1/18現在の業者間転売価格は、…中略…

1/12現在のガソリン在庫は、…中略…

結論として当方の相場観は、荒い相場は続くと思われるので、突っ込み買いの吹き値売りがベターであろう。ただし基本的には、原油高&円安で天井はまだ先の話であると考え。

○東京灯油日足

…削除済み…

今週の灯油の値動き

	2月限(当限)	前日比	7月限(先限)	前日比
1月15日	¥81,100	0	¥71,240	120
1月16日	¥80,290	-810	¥69,930	-1310
1月17日	¥81,100	810	¥70,290	360
1月18日	¥82,460	810	¥72,010	1720

最後に灯油です…

先週号においては『国内需給逼迫は輸入で改善されているが、円安下の輸入ということでコストアップしている。よって灯油価格の高止まりは続くだろうが、調整安が出ないとこれ以上の急騰も難しいのでは？ 今後は逆張り対処と見る』とコメントした。

今週の相場展開は、16日の下落で翌日には69,690円(1/17)と7万円割れの価格も出たものの、週末はまた急騰で72,240円まで記録。週末には、全限また一代高値の更新となった。

なお需要期の期近相場は、先物よりも1万円高い82,000円台を記録である。

灯油は大幅増産を行っているものの、相変わらず在庫は少ない。今冬の思わぬ寒波での需要が元売りの在庫計画を狂わせ、また円安が進んでいるという事で、需給ギャップを埋めるための輸入も割高になる情勢だ。

…中略…

なお一代の推移は、以下のとおり。

東京灯油一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年2月	¥61,810	7月26日	¥82,910	1月18日	¥61,350	7月26日	¥82,460
2013年3月	¥67,500	8月27日	¥80,300	1月18日	¥64,080	11月6日	¥80,000
2013年4月	¥64,320	9月26日	¥75,760	1月18日	¥62,960	11月6日	¥75,660
2013年5月	¥64,410	10月26日	¥72,970	1月18日	¥62,530	11月6日	¥72,750
2013年6月	¥67,680	11月26日	¥72,270	1月18日	¥64,690	12月11日	¥72,060
2013年7月	¥68,440	12月26日	¥72,240	1月18日	¥68,040	12月26日	¥72,010

1/18現在の業者間転売価格は、…中略…

1/12現在の灯油在庫は、…中略…

結論として当方の相場観は、一段と在庫逼迫の状況に陥っており、これでは大幅逆ザヤで高値に位置する期近の下落は無いだろう。そうであれば、先物の下落もあまり考えられず、少なくとも春までは、押し目買い方針の継続しかないだろう。

[為替]

○ドル/円相場日足

…削除済み…

甘利大臣、石破幹事長の発言や、米自動車業界からの円安誘導批判などもあって、週半ばは一時的に 88 円を割る円安の調整局面も出たものの、週末には 90 円台へと乗せる円安である。90.20 円の安値まで出ているが、来週は更に日銀が追加の金融緩和策を出すものと見られている。

今後も、たまに冷やされた場面がドル買いの好機だろうし、商品も同様の動きであろう。

なお来週の主な経済指標の予定は、

21 日（月）米国市場は休場（キング牧師誕生日）、オバマ米大統領就任式、ユーロ圏財務相会合

22 日（火）日銀決定会合、白川日銀総裁の記者会見、ドラギ ECB 総裁、講演

23 日（水）世界経済フォーラム年次総会

24 日（木）米新規失業保険申請件数（1 月 19 日までの週）

25 日（金）日銀議事録（12 月 19 日、20 日分）白川日銀総裁、講演

などである。

…中略…

○ユーロ/円相場日足

…削除済み…

円安は、ユーロ/円でも週末には 120.70 円まで進んだ。

…中略…

○ユーロ/ドル相場日足

…削除済み…

国内商品市場が円安で高値追いつけるのは当然の事であるが、では円安という事はドル高なので、米国商品市場は下落するのではないかと単純に思う人も居るだろう。

…中略…

このレポートは、私が個人的な判断で書いたものです。

内容の責任はすべて私に帰するものですが、取引に対する利益を保証するものではありません。

(当たり前ですが念のため)

ひげの中ちゃん相場情報

中田幸一郎

メールアドレス info@higenaka.com